池田古墳調査成果の概要

１　所在地　　朝来市和田山町平野
２　調査面積　１，５１４㎡
３　調査開始日　平成 21 年７月７日（12 月終了予定）
４　調査の目的
・事業者名　国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所
・事業名　　一般国道９号沿道環境改善事業に伴う発掘調査

５　池田古墳の概略
・　全長約 141m、周囲に盾形の濠を巡らした大型前方後円墳である。規模的には県下第４位の規模を有する。
・ 築造時期は古墳時代中期初頭～前半（5 世紀初め～前半ころ）とされており、若水古墳、城ノ山古墳に続く但馬の王墓である。

６　これまでの経緯
・　古墳は昭和 40 年の分布調査で発見され、昭和 45 年からの国道 9 号バイパス工事においても橋脚（池田橋）で跨ぎ保存が図られてきた。
・ 昭和 46 年以降は市教育委員会により小規模な確認調査などが行われてきた。
・ 一般国道９号沿線環境改善事業に伴う調査は昨年度から行っており、昨年度の調査では、墳丘の両側から濠を仕切る渡土堤（わたりどて）のほぼ全体が検出され、東側の渡土堤から墳丘にかけて、水鳥形埴輪８体が出土し、渡土堤から墳丘の水際に水鳥形埴輪を並べた祭祀用の空間が創られていたものと考えられている。

７　調査結果の概要
・今回の調査は池田橋撤去に伴い、下り車線側迂回路建設に伴うものである。
・ 調査の結果、東・西造出し、墳丘（東側第１段テラス、西側第１段テラス、西側第２段テラス）、東・西周濠を検出した。

造出し

〔東造出し〕
・ 東造出しは、墳丘と直行する辺が検出できていないが、平面規模は墳丘

と直行する側が上面で約 11.4m、並行する側が上面で 14.7m以上（推定 17～18m）、の長方形を呈し、高さ 80 ㎝を測る。検出された辺の斜面は葺石が葺かれていた。

- 東造出しと墳丘とは、幅２m、深さ 60 ㎝のＶ字形の溝で区画されているが、墳丘とＶ字形の溝で区画された造出しは、他に例がない。
- 造出し上面の、西側と南側の縁辺部では、径約 30 ㎝の円筒埴輪列を検出したほか、西側縁辺部を中心に、家形埴輪の破片が散乱した状態で出土しており、造出し上に置かれていたものと考えられる。
- 東側斜面及びその裾部付近で、水鳥形埴輪の破片７体分（うち１点は 20 年度出土の１点と同一個体）が出土している。造出し上に置かれていたものが、周濠内に投げ込まれたものと考えられる。
- 造出し上面の一部にはレキが残存していることから、上面にはレキが敷き詰められていたようである。

〔西造出し〕

- 西造出しは、西側と北側の縁を検出した。造出しの規模は墳丘と直行する方向が上面で約 13m、並行する方向が上面で 12.5m以上であり、高さは最高 50 ㎝である。西側と北側の斜面には葺石が葺かれており、東側より良好な状態で検出されている。
- 墳丘とは、小規模な石組の水路によって隔てられている。意識的に水を流す儀式（祭祀）が行なわれたものと考えられる。前回の調査では、この水路の延長上で、木樋が出土していることも示唆的である。
- 上面や西・北の斜面から家形埴輪や円筒埴輪の破片、壺や高坏を小型にした土器（ミニチュア）が 10 点以上出土している。埴輪数は東側より量は少ない。また、水鳥埴輪は出土していない。
- 東側同様、上面にはレキが敷き詰められていたようである。

墳丘

- 東側第１段のテラスでは、第２段葺石と円筒埴輪列を検出した。葺石は、前回調査に続くもので、前回より良好な状態で検出されている。逆に、円筒埴輪列の遺存状況は良好ではなく、多くは崩落していた。
- 西側第２段テラスでは、第３段斜面の葺石を検出した。池田古墳では、第３段斜面の葺石としては、初めての発見である。テラスの西側は大きく後世の削平を受け、埴輪列は残存していなかった。
- 西側第１段テラスは、第２段テラスとは逆に、円筒埴輪列が残存していたが、第２段斜面は残存していなかった。円筒埴輪列に関しても、東側同様、多くが崩落しており、残存状況は良好ではない。

周濠

・東周濠の東側では外提部を検出した。葺石・埴輪列は検出されていない。
・西周濠の西側は、東側同様、外堤を検出した。葺石・埴輪列は検出されていない。

８　調査の意義

（１）但馬最大の大型前方後円墳の東西２か所の造出しを同時に調査した結果、両者の形態、埴輪の種類・出土状況などに大きな相違が認められた。

（２）造出し（つくりだし）・渡土堤（わたりどて）を兼ね備えた大型前方後円墳の多くは、陵墓に比定されたり国指定史跡に指定されている。また、全国でこれまでくびれ部の両造出しが面的に調査された例がないことから、両造出しは同一構造と考えられていた。今回の調査成果はこの推測を覆すもので、それぞれの造出しには異なった役割（祭祀など）が存在したことを明らかにした点で注目される。

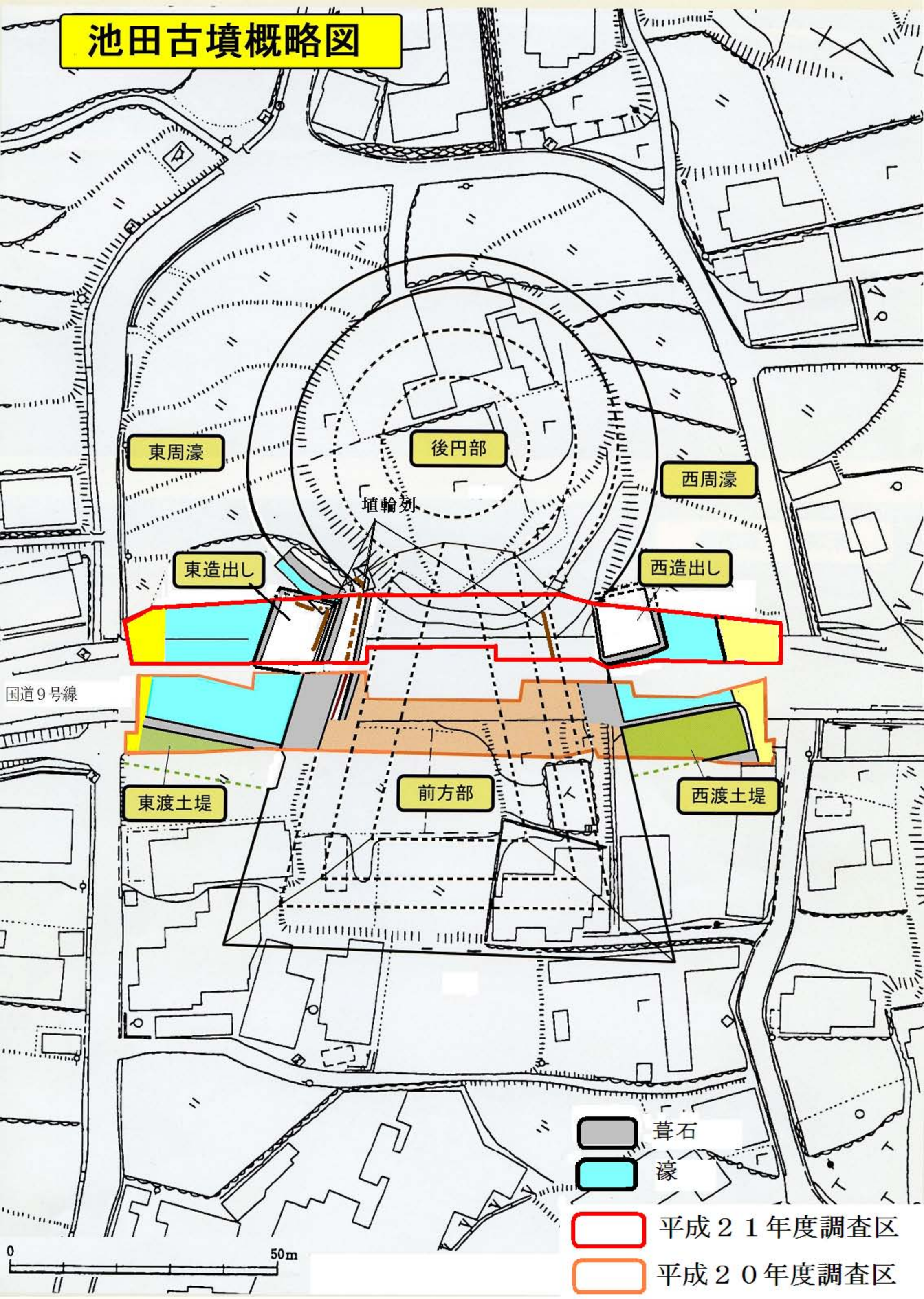
（３）前回の調査成果と合わせてみると、渡土堤・造出し一体となった、墓前祭祀の景観復元が可能となった。特に、墳丘と造出しの境で、水辺祭祀が行なわれていた遺構が、良好な状態で検出されている。その状況も東側と西側で異なる。

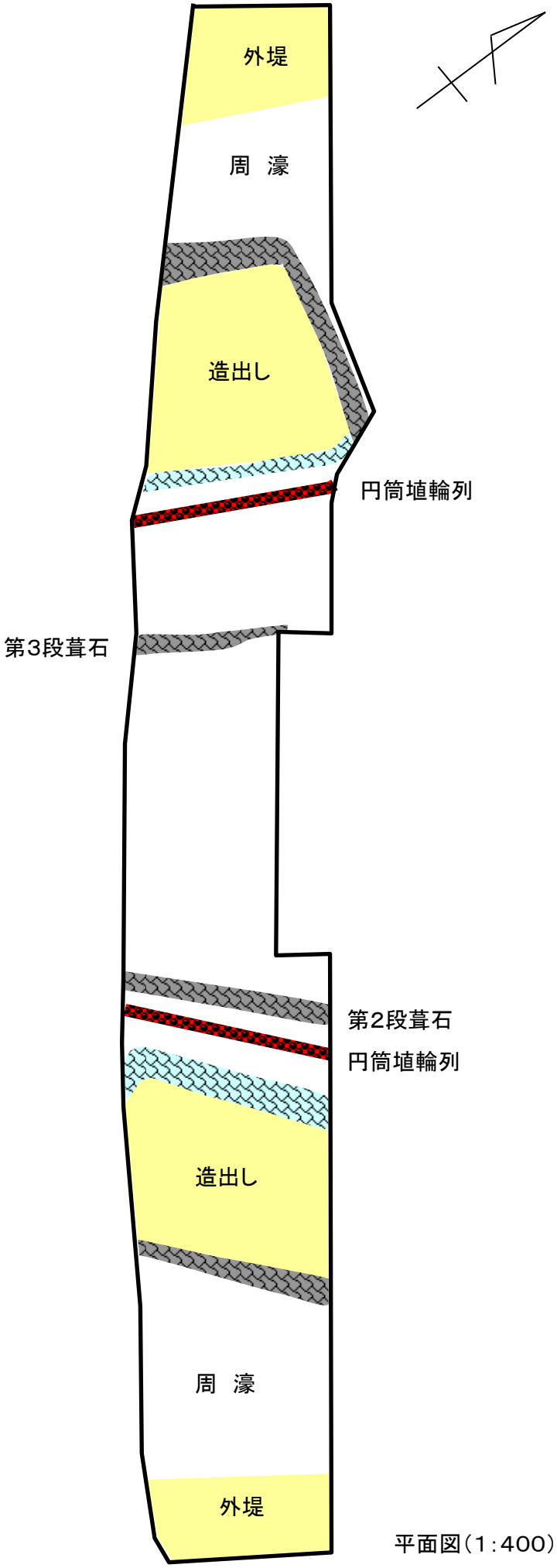
（４）西側第３段葺石の検出により、池田古墳が三段築成であることが裏づけられた。

（５）東造出しから新たに７体（うち１点は20年度出土の１点と同一個体のため新発見点数は６体）の水鳥形埴輪が出土した。水鳥形埴輪の総出土数は、20年度に出土した８体と朝来市の調査でみつかっている１体を加え計15体となり、応神天皇陵（誉田御廟山（こんだごびょうやま）古墳）とならび全国最多となった。

＜問い合わせ先＞
県立考古博物館　℡：０７９－４３７－５５８９

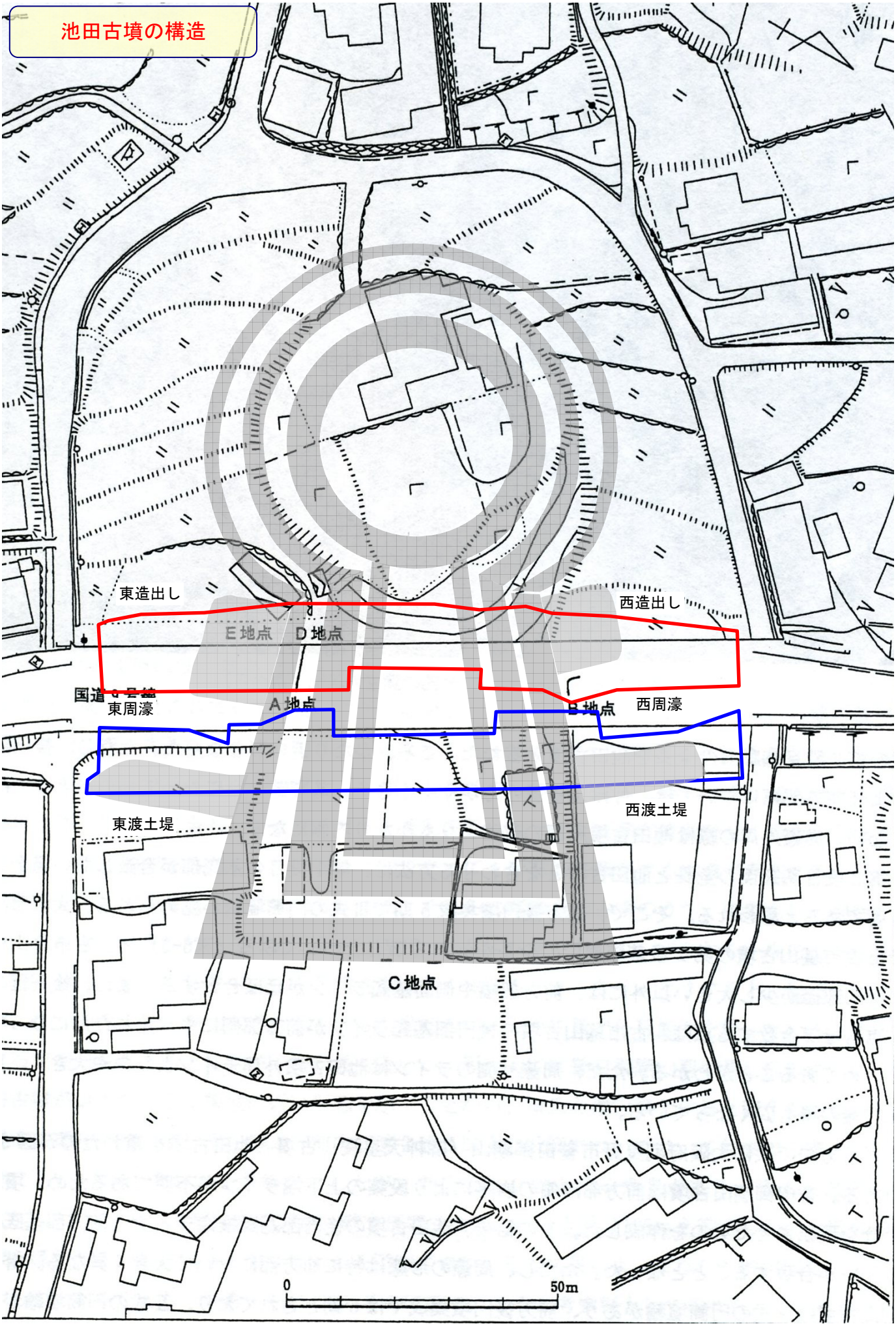
池田古墳概略図


東周濠
後円部
西周濠
埴輪列
東造出し
西造出し
国道９号線
東渡土堤
前方部
西渡土堤
葺石
濠
平成２１年度調査区
平成２０年度調査区
0
50m



平面図（1：400）

池田古墳の構造



写　真

池田古墳の全景（南東上空から）

東側造出し全景（東から）

東側造出し区画溝（北から）

東造出し上の円筒埴輪列（北から）

東側墳丘斜面の水鳥形埴輪出土状態

墳丘東側（北東から）

西側周濠と西造出し（西から）

西造出し（北西から）